

## 今月の重点活動

### ■カキ トップブランド「天下富舞」出荷始まる

岐阜県で育成されたカキのトップブランド「天下富舞」の出荷が10月25日より開始された。本年は長雨や高温少雨などカキ栽培には大変な年であったが、生産者による細やかな管理のもと本年も高品質なカキが生産された。初セリは名古屋北部市場において知事出席のもと10月26日に行われ、前年を上回る86万円（消費税抜き）という過去最高額で落札された。

農業普及課では、収穫にあわせ品質調査を行い、今後の安定生産指導につなげることとしている。



【天下富舞（天下人）】

（園芸産地支援第二係・小枝俊仁、杉浦真由）

## ぎふ農業・農村を支える人材育成

### ■食農教育 稲刈り体験活動支援

羽島市立福寿小学校では、5年生が6月に田植え体験活動を行った水田において、10月18日に稲刈り体験活動が開催された。

当日は、地域の生産者やJA、市役所とともに体験学習の支援を行った。農業普及課からは、田植えから稲刈りまでの稲の生育についての説明や、児童の刈取作業の補助を行った。初めて稲刈りを行う児童らは、最初は恐る恐る鎌を使って作業していたが、慣れてくると「もっと稲を収穫したい」と積極的に作業をする姿も見られた。最後には、コンバインでの収穫作業も見学し、農作業の省力化も実感できたようであった。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、食農教育の一環としての田植えや稲刈り等の稲作体験活動への支援を継続する。



【体験活動の様子】

（地域支援第二係・木村裕子）

## 安心で身近な「ぎふの食」づくり

### ■羽島市水稻種子採取組合 「ハツシモ岐阜SL」種子の収穫始まる

羽島市水稻種子採種組合では、小熊、足近、桑原の3地区において「ハツシモ岐阜SL」の種子を合計8.15ha生産している。

8月末に出穂期を迎えた採種ほ場の「ハツシモ岐阜SL」は、出穂期以降の曇雨天の影響により、細菌性の穂枯れ症状がわずかに見られたものの、概ね順調に生育し、10月18日から収穫作業が行われた。

今後は、農業普及課で種子発芽試験を実施し、合格した種子は精選作業と生産物審査を経て、次年度の種子として出荷される。



【収穫作業風景】

（地域支援第二係・木村裕子）

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■水稲 外観品質の良い「にじのきらめき」を新嘗祭に献穀

岐阜管内では、高温に強く栽培しやすい早生水稲「にじのきらめき」が担い手を中心に普及してきており、今年度は約200haの作付けがある。今年度、本巢市の担い手が皇居で執り行われる新嘗祭に精米を納める事となり、収穫時期の早さから同品種での献穀を決めた。

農業普及課は本巢市やJAぎふと連携して献穀田の栽培管理指導や抜穂祭の開催支援を行ってきた。今年はコロナ禍により送付での納品となったため、10月18日に本巢市役所において箱詰め、発送準備を行い、関係機関が作業に立ち合った。当日は、精選した「にじのきらめき」1升を献穀者が手縫いした木綿袋に詰め、それを桐箱に納めて発送した。

これにより、献穀に関する一連の行事は終了したが、今後も農業普及課では同品種の安定生産と生産拡大に向けて、各種現地試験を行い栽培体系を構築していく。

(地域支援第三係・松本 政行)



【献穀米の袋詰作業】

### ■いちご 各務原市園芸振興会いちご部会栽培講習会の開催

10月6日、各務原市園芸振興会いちご部会の栽培講習会が開催された。本年は8月中旬の天候不良に伴う気温低下により「美濃娘」については、ほとんどのほ場で9月中の出蕾が見られる状況となっている。近年、8月中下旬から9月上旬の気温推移がイチゴの花芽分化に影響を及ぼし、栽培管理を難しくしている。

栽培講習では今後の栽培管理の要点を説明した他、気象変動が及ぼすイチゴ生産への影響とその対策についても情報提供を行った。気象変動に関しては生産者の関心が高く、活発な意見交換が行われた。

(園芸産地支援第二係・菊井裕人)



【部会長の挨拶】

### ■カキ かきの出荷始まる

岐阜管内では10月4日の早生品種「早秋」「太秋」の初選果を皮切りに、11日より中生品種「早生富有」の出荷が始まった。各産地では良品質な柿の出荷に向け、出荷目揃え会や市場との情報交換会が行われている。

今年から岐阜市かき共販振興会、瑞穂市柿振興会、北方町柿部会の3組織の出荷が一本化され、◎として新たなスタートを切った。

農業普及課では、収穫作業や栽培管理の注意点等の情報提供を行い、高品質果実の出荷に向けた支援を行っている。

(園芸産地支援第二係・小枝俊仁、杉浦真由)



【出荷目揃え会】

## 中山間地域を守り育てる対策

### ■桑の木豆 桑の木豆の出荷始まる

山県市旧美山地区の桑の木豆生産クラブは会員数25名で、飛騨美濃伝統野菜に認証されている桑の木豆を栽培している。

生育の早い株は9月下旬から莢が赤く色づきはじめ、10月1日からふれあいバザールへの出荷が始まった。

今年は、(農)あおなみが桑の木豆の栽培に初めて取組み、桑の木豆生産クラブへ加入した。

農業普及課では、新たな生産者への栽培支援や生育中の巡回指導など、桑の木豆の産地支援を引き続き行っていく。

(地域支援第三係・河合 浩子)



【(農)あおなみの桑の木豆】